大津WEB新報

大津市民による社会・福祉・医療の情報誌

補助金の不透明な支出を繰り返す

琵琶湖市民清掃

市民ボランティアによって琵琶湖を美しくするという目的を掲げた「琵琶湖市民清掃」で、大津市から補助金を受け取っている団体が、極めて不透明な支出を繰り返していることが、情報公開制度を通して開示された文書などから明らかになった。団体責任者自らが補助金からの謝礼金を受け取ったことを示す領収書などが多数見つかっている。市はチェックする立場にありながら、「市の事業ではない」と主張している。

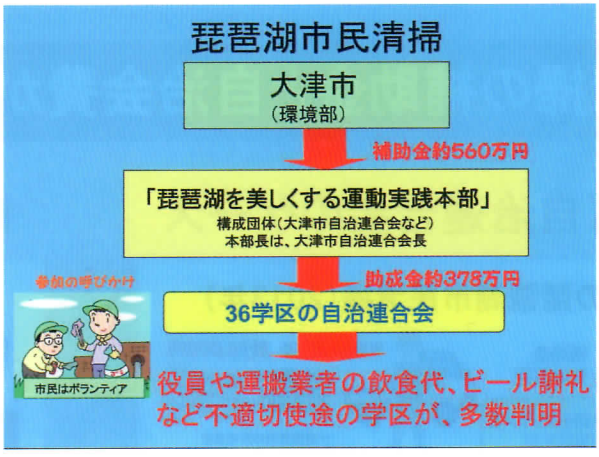
この団体は、大津市自治連合会などでつくる「琵琶湖を美しくする実践本部」。本部長は、大津市自治連合会の会長。事務局長は、大津青年会議所で、会計は滋賀県建設業協会大津支部。

市から560万円の補助金を受け取り、毎年6月下旬から7月上旬に、市民にボランティア参加を呼びかけ、一斉清掃事業を実施している。

５６０万円が「実践本部」へ

市への報告文書からは、ビール代など不適切な支出を示す領収書や、筆跡や書式が不自然な経理書類が、多数見つかっている。

市はこうした事実を把握し、チェックする立場にあるが、これまで全く問題にしていない。むしろ、市は市民清掃の当日、部長級以下100人近い職員を有給で動員するなど、事業を積極的に支援し、事務の肩代わりまでしていた。



2015年1月開設

地域にはさまざまな問題があるのに、闇に包まれたままになっている例が多数あります。
例えば、公平性と透明性が確保されるべき公金は、適切に使われているのでしょうか？
本当に必要な人たちに行き渡っているのでしょうか？
情報公開制度を使い、ホームページで事実を明らかにしています。
社会福祉士と元記者、協力者たちの力を結集し、調査報道に挑みます。

http://otsu-shinpou.info